

2024年11月22日
セイコーエプソン株式会社

新型 PaperLab による複数企業で取り組む紙資源循環の実証実験を開始

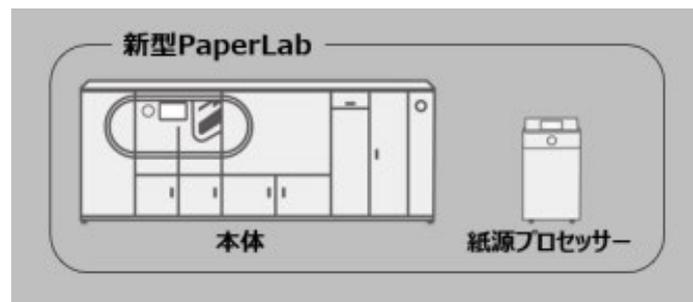
セイコーエプソン株式会社(以下 エプソン)は、株式会社インフォファーム(以下 インフォファーム)、高橋金属株式会社(以下 高橋金属)、株式会社ヤマ食(以下 ヤマ食)と2024年11月21日より開始した、新型 PaperLab 本体と紙源プロセッサ^{※1}を活用した企業間同士で取り組むことができる紙資源循環に関する実証実験の調印式を行いました。新型 PaperLab を使った企業との実証実験は今回が初となります。



実証実験に関する調印式の様子

PaperLab は、エプソンが2016年に発売した世界で初めて^{※2}水を使わず^{※3}、使用済みの紙^{※4}を原料として、新たな紙を生産できる乾式のオフィス製紙機です。

今回実証実験に使う新型 PaperLab は、従来の集中処理型とは異なり、本体のない場所でも紙源プロセッサにより、機密文書を内容が判読できなくなるレベルまで細断でき、そのまま本体へ投入し再生させることができます。これにより紙を再生させたい全ての拠点で本体を持たなくとも、紙源プロセッサを活用することで、企業はセキュリティを担保した状態で紙資源循環に取り組むことができ、安心して環境貢献の輪を広げることができます。



この度、エプソンは新型 PaperLab を用いて複数企業が連携し実現する紙循環活動の仕組みを確立するため、インフォファーム、高橋金属、ヤマ食と実証実験を始めます。実証実験の概要は以下です。

<インフォファーム、高橋金属、ヤマ食との実証実験の概要>

目的 : 複数企業が連携し紙循環を実現するスキームの構築

期間 : 2024年11月21日から

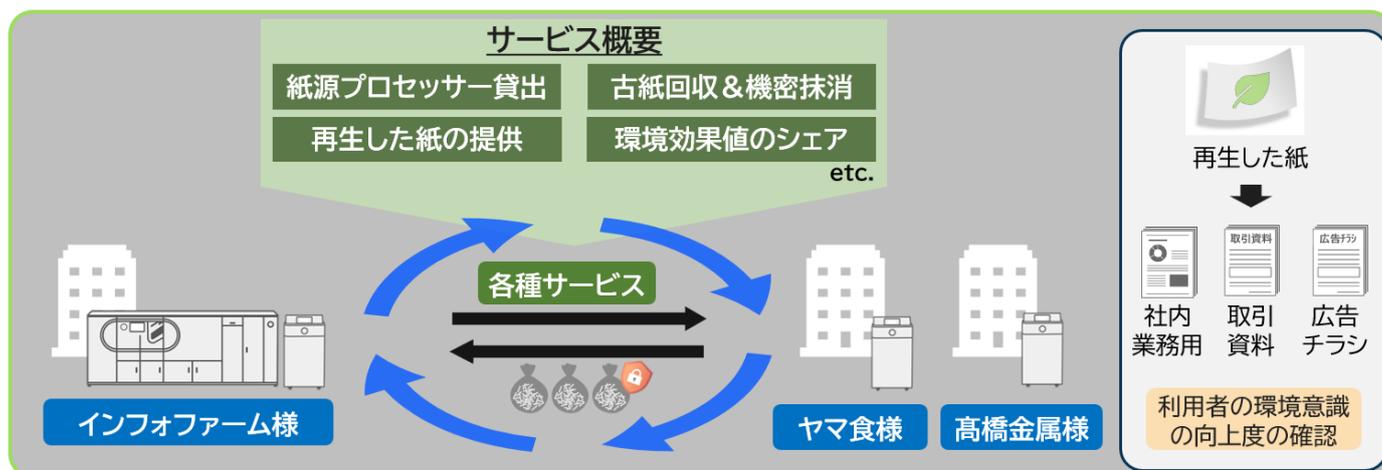
設置場所 : 新型 PaperLab 本体 インフォファーム

紙源プロセッサー インフォファーム、ヤマ食、高橋金属

検証内容 : ①新型 PaperLab および紙源プロセッサーを導入する企業が参画企業を募り、各種サービス(紙源プロセッサー貸出、再生した紙の提供など)を提供することで安定して古紙を回収するスキームの有効性

②複数企業が連携して「古紙の回収～再生紙の生産～再生紙の配布・活用」を実現する流通/運用スキームの有効性

③紙循環活動および再生した紙の活用による従業員や参画企業のお客様などの環境意識の向上度



エプソンはこれからも独自の技術を進化させ、資源循環活動を促進するさまざまな低環境負荷商品を生み出しお届けすることで、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

- ※1 古紙を機密内容が判読できなくなるレベルまで細かく、新たな紙として再生するために適した形状にする機器。
- ※2 2016年11月時点、乾式のオフィス製紙機において世界初（エプソン調べ）。
- ※3 機器内の湿度を保つために少量の水を使用します。
- ※4 一般コピー用紙（A4・A3）を原料として使用できます。

以上

参考

乾式オフィス製紙機『新型 PaperLab（プロトタイプ）』を開発、エコプロ2023で初公開
corporate.epson/ja/news/2023/231206.html